

第2次北九州市いきいき長寿プラン 事業調書

目標	施策の方向性	No.	取組名	概要	成果指標 (上段) 指標名・指標数値 (下段) 指標設定の考え方	取組結果 (令和4年度)	今後の方向性(令和5年度以降)・課題など
3 家族介護者への支援							
		89	アウトリーチ型支援の拡充	<p>「ダブルケア」「ヤングケアラー」「8050問題」等の高齢者の介護だけに留まらない複合的で多様化する問題の解決に向けて、地域包括支援センターの職員のみならず、子ども家庭相談コーナーや高齢者・障害者相談コーナーの職員及びスクールソーシャルワーカー等との連携を図るとともに、高齢者いきいき相談(巡回相談)・まちかど介護相談室等に寄せられた相談に対しても必要に応じて訪問する等、アウトリーチ型支援を充実させます。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を踏まえ、ICTを活用した効率的・効果的なアウトリーチ体制を整備します。</p>	<p>訪問相談件数 令和元年度：51,283件 → 令和5年度：基準値より増加</p> <p>訪問相談がアウトリーチ型支援の核となるため。</p>	訪問相談件数 47,316件	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的、多様化する問題の解決に向けた関係機関との連携強化 ・新興感染症等の感染拡大時の継続したICT活用
		90	自殺予防こころの相談電話の設置	<p>悩みのある市民に対し、敷居が低く、わかりやすく、アクセスしやすい相談窓口として、専用回線の電話相談に臨床心理士等が応じます。必要に応じて、地域資源などの情報提供も行います。</p>	<p>相談件数 令和元年度：2,847件 → 令和5年度：基準値より増加</p> <p>市民にとって、わかりやすく、アクセスしやすい相談窓口があることの意義は大きく、専用回線への相談件数を活動指標とします。</p>	<p>令和4年度の相談件数は3,512件であり、当初計画策定時である平成28年度に比べ約1.6倍となっている。相談への対応としては、その多くが傾聴を中心としたものになっている。</p>	<p>様々な悩みが寄せられており、相談員が丁寧に傾聴し、問題を整理しながら、必要に応じて助言・情報提供を行う必要がある。</p> <p>相談員研修会を定期開催するなどし、対応スキル等の向上に今後も努めていく。また、真に相談を必要とする方が相談できるよう、より積極的に広報啓発を行っていく。</p>
	R4年追加		福祉用具や介護技術に関する相談支援	<p>福祉用具や介護技術に関する相談支援の中核拠点としての役割を果たします。</p>	<p>訪問回数 令和5年度：440回</p> <p>相談支援については実際の生活場面においての支援が重要であることから、訪問回数を成果指標として設定。</p>	訪問件数：224件	<p>オンラインによる相談対応の導入や福祉用具の試用貸出し等を行い、専門職による適合支援を充実する。</p>
		91	介護教室の開催	<p>市民や専門職を対象に、実践的な介護・介助方法や介護の心得などについて介護福祉士、理学療法士、作業療法士などが指導します。</p>	<p>未設定</p> <p>回数や参加人数だけで成果を測るものではないため、目標値等の設定はできない</p>	<p>介護や福祉用具に関する基礎講座：29回(271人) 介護福祉用具に関する啓発講座：35回(240人) 自助具制作の体験講座：6回(32人) 介護や福祉用具に関する専門職研修：22回(195人)</p>	<p>市民や専門職のニーズ等に沿った講座の企画及びより効果的な周知を実施していくとともに、福祉用具の活用や介護技術の普及を図っていく。</p>
		92	高齢者の排泄相談等の実施	<p>尿もれや頻尿など、排泄に関して悩みのある高齢者やその家族、あるいはかかりつけ医やケアマネジャーなどが気兼ねなく相談できるように、排泄ケアの専門相談窓口として、「電話相談」と「相談会」を行います。また、高齢者の排泄ケアに関する知識の普及・啓発のため、研修会などを開催します。</p>	<p>相談件数 令和元年度：241件 → 令和5年度：基準値より増加</p> <p>高齢者が排泄障害による要介護状態になることを防ぐには、高齢者が排泄に関して気軽に相談できる体制の整備が有効であるため。</p>	<p>相談件数 200件 研修・講座参加者数 140名</p>	<p>相談件数は減少傾向にあるが、潜在的なニーズは多くあると思われるため、引き続き、相談や研修会等を実施していく。</p>

第2次北九州市いきいき長寿プラン 事業調書

目標	施策の方向性	No.	取組名	概要	成果指標 (上段) 指標名・指標数値 (下段) 指標設定の考え方	取組結果 (令和4年度)	今後の方向性(令和5年度以降)・課題など
		93	企業等を対象にした介護への理解促進	企業等の事業者に対して、仕事と介護等との両立への一層の理解を働きかけていくため、企業等への出前セミナーやアドバイザー派遣等を通じて現役世代への情報発信や社員等の介護への理解の促進を図ります。	出前セミナー数・派遣数(合計) 令和元年度: 37回 → 令和5年度: 基準値を維持 企業に対する支援を毎年継続的に実施する必要があるため	出前セミナー数・派遣数(合計): 26回	より多くの企業に支援が行き渡るよう、広報に力を入れるとともに、実施方法などについて柔軟に対応する必要がある。市内企業等の意見を踏まえながら、効果的な広報・実施方法について検討し、改善を図る。
		94	男性向け介護講座の開催	男性を対象に、介護に関する基礎知識を習得し、同じ悩みを抱える仲間とのネットワークづくりをサポートすることを目的として講座を開催します。	受講者アンケートの満足度 令和元年度実績100% → 毎年度90%以上を維持 受講者に講座内容について満足してもらうことで、家族介護者への支援を目指すため。達成可能な目標とし、満足度向上に向け検討していく。	受講者アンケートの満足度100%(未回答除く)	コロナ禍のため、引き続き定員を減らしての募集(18人→15人)としたが、第7波の影響を受け、7名の申込、5名の参加となった。介護は大きな社会問題となっている背景もあり、例年と同様非常に高い評価を受けている。今後も引き続き事業を継続していきたい。